

リサイクルによりごみの減量化が進む

# 循環型社会の実現のために 私たちにできること

伯耆町は、国立公園大山、一級河川の日野川や豊かな森林など美しい自然環境に恵まれています。この素晴らしい環境を次世代に引き継ぐため、大量生産、大量消費、大量廃棄という経済社会活動や私たちの生活を見直し、循環型社会を築いていく必要があります。



軟質プラスチックの回収風景

- 1 **Reduce** (リデュース 減らす)  
できるだけ、ごみは作らない。
- 2 **Reuse** (リユース 再使用)  
まだ使えるものはごみにしないで、別の使い方を考えよう。
- 3 **Recycle** (リサイクル 再利用)  
ごみとして捨てるときは、大切な資源として生かせるよう、正しく分けて捨てよう。
- 4 **Refuse** (リフューズ 断固として断る)  
不要なものは買わない・もらわない。
- 5 **Repair** (リペア 修理)  
修理して長く使い続けよう。

循環型社会とは、ごみの発生をできるだけ抑え、天然資源の消費量を減らし、環境への負荷をできる限り少なくする社会のことです。

ごみを減らし、資源やものを大切に使う環境にやさしい生活への転換が求められています。循環型社会をつくるためのキーワードを5Rといいます。リデュース、リユース、リサイクル、リフューズ、リペアの頭文字をとった言葉です。

## 伯耆町のごみ事情

伯耆町では、平成20年度の可燃ごみの処理量は平成19年度に続き減少し、一人当たりのゴミの排出量に換算すると、平成19年度より約3kg減量となりました。総量ベースで約61t、約2%の減量となります。

これは、平成19年4月から始まった軟質プラスチックの分別への協力が進んできたためだと考えられます。

## 軟質プラスチックの活用

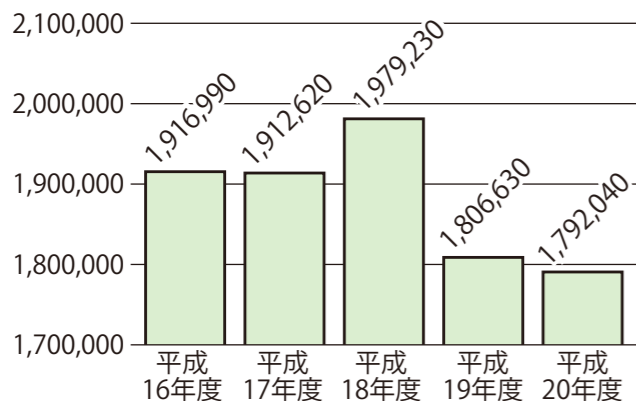
軟質プラスチックごみは、スーパーの買い物袋、食品用トレイや豆腐、卵の容器、お菓子の袋、CD・DVDケースなどプラマーク（①を参照）のついたものです。

伯耆町では、月2回収集され、米子市大篠津町にある鳥取県リサイクル協同組合のRPF製造工場へ運ばれます。

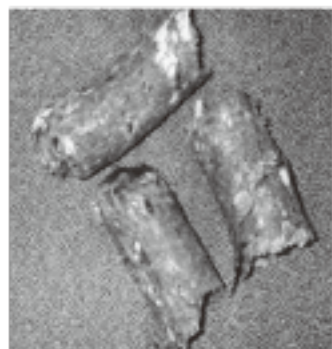


①

■可燃ゴミの処理量(kg)



鳥取県リサイクル協同組合のRPF製造工場



固形燃料『RPF』  
製造中の摩擦熱で軟質プラスチックが紙と木を包みこんでできあがる。

に、古紙や木と混ぜて生成する「ペーパー」、『RPF』(Refuse Paper & Plastic Fuel)の略称)という固形燃料を製造しています。この『RPF』は、ダイオキシンがほとんど発生しないクリーンな燃焼ガスとなり、高い燃焼性があることから、石油等化石燃料の代替として注目されています。また、『RPF』は燃焼させた後に残る灰が石炭に比べ1/3以下となるため、灰処理費が削減でき、経費削減の目玉としても企業から注目されています。

この工場でリサイクルされたきあがったRPFは、日吉津村にある製紙工場のボイラーの燃料として日々活用されています。

## 今後のごみ減量化に向けて

伯耆町では、軟質プラスチックごみの分別をさらに進め、リサイクルを推進します。

それにはまず「正しく分別する」ということが重要になっていきます。

町では、各集落から廃棄物減量等推進員を推薦いただき、ごみ処理の過程の視察研修やごみの分別についての研修を重ねていただいています。

ごみの分別などについて、疑問に思われたときは、最寄の推進員さんにお尋ねいただき、リサイクルの推進にご協力いただけますようお願いいたします。そして本年度からは、生ごみの水切りにより、可燃ごみの輸送や燃焼に必要な燃料を減らしたいと考えています。

今後とも、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。